

## ご挨拶



### 第 26 回歯科保健医療国際協力協議会総会及び学術集会 会長 河村康二

この度は、第 26 回歯科保健医療国際協力協議会総会及び学術集会の開催を仰せ賜りました南太平洋医療隊の河村です。学生時代では医療保障研究会に所属し「全ての人に平等で質の高い医療を！」と理念を掲げました。歯科医院の開業を営みながら、少しでも発展途上国での歯科医療の向上と健康に寄与できればと思い 1998 年より主にトンガ王国にて活動してきました。

本集会のテーマは「日本から発信！健康を呼び込む口腔保健」です。

日本や歯科界を取り囲む状況は決して豊かな状況とは言えませんが、その中で特に私達医療関係者が国際貢献をする事が重要と考えます。

未来を担う歯科大学の学生の皆さんが体験した海外でのスタディーツアーでの体験からの発表を始め、歯科衛生士さんから予防業務の実践的な考えと技術移転の苦労話しを皮切りに各団体から様々な発表を頂き明日の海外協力に役立つように一般口演を考えました。

特別企画として「笑顔のプログラム in Tonga, since 1998」のテーマで、南太平洋医療隊のトンガ王国でのボランティア活動。乳幼児への歯科予防対策，学校歯科保健活動，フッ化物洗口事業，成人への NCD 対策，障害者対策など・・・過去から未来へつなぐシンポジウムを設定しています。

大会を開催するにあたり大変お世話になりました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。JAICOH に参加する各団体、役員、会員の皆様の多大なご尽力に感謝の意を表します。

本学術集会が皆様の発展に寄与できればと思いご挨拶と致します。

## Message

The Chairman of the 26th academic assembly of JAICOH  
Dr. Kohji Kawamura, Ph,D, DDS.



On behalf of organizing committee, it is my great pleasure and honor to extend this invitation to take part in the coming the 26th academic assembly of JAICOH. When I was a dental school student, I was involved in the study group for medical care assurance research and shared the principle of the group such as ‘fare and high quality medical cares to all people’ with members. Then until now, I am managing the dental office and concurrently volunteer activity in the Kingdom of Tonga from 1988 to improve both oral and general health in developing countries.

The main theme of the 26th academic assembly of JAICOH is “JAPAN kara Hattushin!! Health wo Yobikomu Oral Health ”

Although the circumstances of Dentistry and Japan are not generous currently, it is very important to progress the international contribution by, in particular, medical and dental staffs in this severe situation.

This meeting is going to be assembled by the report of international study tour by dental student who will bear the future of dentistry, the instruction about theory and practice of prevention with case report of installation of prevention system into the developing country by dental hygienists and many presentations from other organizations. We hope that the congress will provide many information and suggestions for the future of international contribution. Moreover, the progress of volunteer activity of SPMT in the Kingdom of Tonga (e.g., oral health care for infants and school students including fluoridation, prevention of both periodontal disease and non-communicable disease in adults and oral health care for disability peoples) will be reported as special symposium named “MaliMali program in Tonga, since 1998”.

I would appreciate for all of person who spent effort to organize 26th academic assembly of JAICOH as well as participants.

## 【目 次】

大会長挨拶	1
会場へのアクセス	4
学術集会に参加される方へのお知らせ	5
JAICOH26 プログラム	7
抄録	
特別企画抄録	12
学生部門抄録	19
一般口演	24
協力企業・協賛企業	41
大会準備委員一覧	42

## 【会場へのアクセス】

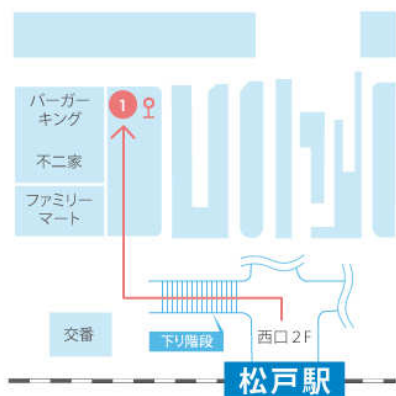
日本大学松戸歯学部 101 教室

〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1



- 松戸駅（JR 常磐線快速・各駅停車〈東京メトロ千代田線直通〉・新京成電鉄）  
→西口 1 番バス乗り場（京成バス）→「日大歯科病院」行きバス終点下車  
☆乗車時間約 15 分
- 南流山駅（JR 武蔵野線・つくばエクスプレス）  
→バス乗り場→「松戸駅」行きバス「日大病院入口」下車  
→徒歩  
☆乗車時間約 15 分 バス停より徒歩約 5 分

## バス乗り場



## 【学術集会に参加される方へのお知らせ】

### I. 参加受付

会場受付前にある記名台に設置されております当日登録用紙に必要事項をご記入の上、受付にて学術集会参加費をお支払いください。登録終了後、抄録集をお受け取りください。

4日からご参加の場合、参加証は作成いたしませんので、5日入場の際は必ず抄録集をご持参ください。

### II. 学術集会参加費・懇親会参加費

学術集会参加費：	会員	1,000円	
	非会員：一般	3,000円	
	非会員：大学生，専門学校生，高校生以下，留学生		無料
懇親会参加費：	一般：会員，非会員	3,000円	
	学生・留学生	2,000円	
	高校生以下		無料

《参考 JAICOH 年会費》

普通会员5,000円，維持会員10,000円，学生会員2,000円

### III. 発表について

#### 1. 発表日時および発表時間

- 学生口演 7月4日（土）14：00～  
15分間程度で質疑応答も含めた口頭発表をしてください。
- 学生ポスター 7月4日（土）15：35～翌日  
大きさの指定はありません。また，質疑応答の時間はありません。  
翌日の懇親会前まで貼付しておいてください。
- 一般口演 7月5日（日）9：40～  
発表8分＋質疑応答2分の計10分程度

#### 2. 発表に使用するPCデータ

アプリケーション Windows 版 Power Point2007・2010 を推奨します。

#### **IV. 役員会**

役員会 7月5日(日) 12:00~13:00 日本大学松戸歯学部食堂会議室  
総会 7月5日(日) 13:00~13:30 日本大学松戸歯学部 101 講堂

#### **V. 前夜祭・懇親会**

前夜祭(学生懇親会) 7月4日(土) 17:30~ 場所未定  
懇親会 7月5日(日) 15:30~ 日本大学松戸歯学部食堂

第26回歯科保健医療国際協力協議会学術集会

# プログラム



# 【JAICOH26 プログラム】

☆7月4日(土) 日本大学松戸歯学部101講堂☆

14:00~14:05 学生部門開会式

14:05~ 学生部門口頭発表会

座長 有川量崇先生(日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学)

谷野弦先生(歯科医学教育国際支援機構, 名戸ヶ谷病院)

## 第I部 14:05~14:35

### 学1 第15次台湾スタディーツアー事業報告

15<sup>th</sup> study tour for community dental health in Taiwan

○倉澤馨<sup>1)</sup>, 浅野一磨<sup>1)</sup>, 池田彩音<sup>1)</sup>, 鯨井桂子<sup>1)</sup>, 松浦葵<sup>1)</sup>, 高橋謙次郎<sup>2)</sup>,  
尤雅田<sup>2)</sup>, 吉原侑希<sup>2)</sup>, 小池将人<sup>1)</sup>, 上野琴美<sup>1)</sup>, 大和田碧<sup>1)</sup>, 眞木吉信<sup>1)</sup>

1)東京歯科大学国際医療研究会, 2)明海大学歯学部

### 学2 国際保健部の活動について

The Activities of International Health Club

○伊藤由李子, 新崎啓介, 加藤利奈, 栗栖諒子

日本大学松戸歯学部国際保健部

## 第II部 14:45~15:15

### 学3 創設10年から考える学生団体の国際保健医療について

For International Health of student organizations

○村田亜志美留, 齋藤孝平, 鈴木志帆美, 金武正二郎, 葛生悠貴,  
千生倫, 柳川亜美

神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会

### 学4 北海道大学冒険歯科部のあゆみ

The' history of Interactive Dental student' s Alliance for Health  
care

○萩野谷大, 実藤潤, 橋本理紗, 池上なつみ, 川村桜, 三浦和仁,  
三原竜太郎, 矢後亮太郎, 本多丘人, 滝波修一

北海道大学歯学部冒険歯科部 北海道大学歯学部

## 第III部 15:15~15:35 学生討論会『学生の思うこと』

15:35~15:45 休憩

15:45 歯科衛生士シンポジウム

進行 鈴木千鶴(南太平洋医療隊・カワムラ歯科医院)

横山恭子(南太平洋医療隊・カワムラ歯科医院)

17:30 前夜祭



**☆7月5日（日） 日本大学松戸歯学部101講堂☆**

- 9:00 受付開始  
9:30 開会式・学生発表表彰発表 河村康二大会長  
9:40 一般口演・学生表彰者記念発表

**第I部 9:40~10:10**

座長 村田千年先生（ふるげん歯科クリニック（沖縄県），ルカジャパン）

**O-1 ミャンマー連邦共和国における口唇口蓋裂患者への医療協力**

Medical Cooperation between Republic of the Union of Myanmar and Japan for Patients with Cleft Lip and/or Palate

○夏目長門

愛知学院大学歯学部口腔先天異常研究室，  
特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会

**O-2 日本の歯科分野の国際交流における戦略的対応の中での口腔ケアの重要性について**

The strategic importance of oral health care for international medical exchange in the field of dentistry in Japan

○夏目長門<sup>1,2)</sup>，鈴木俊夫<sup>1,3)</sup>，鈴木聡<sup>1-3)</sup>，井村英人<sup>1, 2)</sup>，牧野日和<sup>1, 4)</sup>，池上由美子<sup>1, 5)</sup>，山中克己<sup>1, 6)</sup>，青柳公夫<sup>1, 7)</sup>，砂川元<sup>1, 9)</sup>，服部正巳<sup>1, 8)</sup>，新崎 章<sup>1, 9)</sup>

- 1) (社)日本口腔ケア学会，2)愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室  
3)医療法人 鈴木歯科医院，4)愛知学院大学心身科学部健康科学科  
5)がん・感染症センター都立駒込病院 歯科口腔外科  
6)名古屋学芸大学 管理栄養学部，7)青柳歯科医院  
8)愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座  
9)琉球大学医学部歯科口腔外科

**O-3 エチオピア民主共和国での学術調査報告 2014 年度**

Academic research report 2014 in Ethiopia Democratic Republic

○山内楓子<sup>1)</sup>，新崎 章<sup>2)</sup>，西原一秀<sup>2)</sup>，又吉 亮<sup>2)</sup>，長島有毅<sup>2)</sup>，岐部俊郎<sup>3)</sup>，高橋直樹<sup>4)</sup>，大野磨弥<sup>1)</sup>，古川博雄<sup>1)</sup>，夏目 長門<sup>1)</sup>

- 1)愛知学院大学歯学部口腔先天異常研究室  
2)琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科  
3)鹿児島大学病院口腔顎顔面外科  
4)千葉県がんセンター麻酔科

## 第Ⅱ部 10:15~10:55

座長 沼口麗子（沼口歯科医院（練馬区）、カムカムクメール）

### O-4 トンガ王国における SPMT の内科学的検診と啓発活動

SPMT has been practicing the noncommunicable (life-style related) disease awareness program in the Kingdom of Tonga

○内野和顕<sup>1,2)</sup>、河村サユリ<sup>1,3)</sup>、河村康二<sup>1,3)</sup>

1)南太平洋医療隊、2)横浜市立大学医学部非常勤講師

3)カワムラ歯科医院

### O-5 南太平洋医療隊のトンガでの支援活動に参加して

An experience as dental hygienist in oral health promotion in Kingdom of Tonga

○原 幸子<sup>1)</sup>、遠藤眞美<sup>1,2)</sup>、竹内麗理<sup>1,3)</sup>、松本京子<sup>1,4)</sup>、小林清吾<sup>1,5)</sup>、鈴木千鶴<sup>1,6)</sup>、河村サユリ<sup>1,6)</sup>、河村康二<sup>1,6)</sup>

1)南太平洋医療隊、2)日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

3)日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座、4)日本大学附属病院

5)日本大学客員教授、6)カワムラ歯科医院

### O-6 トンガ王国における成人健診の結果からの考察

A study of adult health problems in the Kingdom of Tonga

○竹内麗理<sup>1,2)</sup>、遠藤眞美<sup>1,3)</sup>、内野和顕<sup>1,4)</sup>、田口千恵子<sup>1,5)</sup>、小林清吾<sup>1,6)</sup>、横山恭子<sup>1,7)</sup>、鈴木千鶴<sup>1,7)</sup>、河村サユリ<sup>1,7)</sup>、河村康二<sup>1,7)</sup>

1)南太平洋医療隊、2)日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座、

3)日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

4)横浜市立大学医学部非常勤講師

5)日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座、6)日本大学客員教授、

7)カワムラ歯科医院

### O-7 サモアの小学校における予防プログラムの実施について

Dental program in the primary school in Samoa

○浦崎裕之

浦崎歯科医院

## 第Ⅲ部 11:00~11:30

座長 夏目長門（愛知学院大学歯学部教授・口腔蓋裂ケア-長、日本口腔蓋裂協会）

### O-8 善意で貧困はなくせるか？

○田中健一

がけっぴち予備校

**O-9 ポンホン地区看護師を対象とした口腔保健能力向上プロジェクト**  
Capacity building project of nurses through dental and oral health training in Phone Hong district, Lao PDR.

○谷野弦<sup>1-3)</sup>, 持田寿光<sup>1)</sup>, 渡辺一騎<sup>1)</sup>, 佐藤貴映<sup>1)</sup>, 高山史年<sup>1)</sup>, 小峰一雄<sup>1)</sup>, 宮田隆<sup>1)</sup>

1) 歯科医学教育国際支援機構 2) 名戸ヶ谷病院

3) 日本大学松戸歯学部口腔外科学

**O-10 最近のモンゴルの歯科事情と小児齲蝕予防の取り組み**  
Recent Mongolia dental circumstances and childhood caries prevention efforts

○黒田耕平

日本モンゴル文化経済交流協会

**11:30~12:00 学生表彰者記念発表**

座長 黒田耕平 (神戸生協なでしこ歯科, 日本モンゴル文化経済交流協会)

**12:00 昼食**

※役員は役員会: 日本大学松戸歯学部 食堂会議室

**13:00 総会**

**13:30 特別企画 笑顔のプログラム in Tonga, since 1998**

座長 相田潤 (東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健分野)

企画1 トンガ王国における活動

南太平洋医療隊 河村康二

企画2 歯科衛生士として出来る技術移転

南太平洋医療隊 鈴木千鶴

企画3 トンガ王国から学んだ、途上国における歯科保健の方向性

南太平洋医療隊 河村サユリ

**《指定発言・コメント》**

初代在トンガ大使 高瀬康夫元大使

南太平洋医療隊顧問 小林清吾教授

**15:30 懇親会 日本大学松戸歯学部食堂**

第26回歯科保健医療国際協力協議会学術集会

# 特別企画抄録



## トンガ王国における活動

南太平洋医療隊 河村康二

南太平洋医療隊は、1998 年より主にトンガ王国にてボランティア活動をしている。

その活動はフツ化物の洗口を主軸とした学校歯科保健活動から始まった。トンガ人が名付けた Malimali (笑顔) Program は、2011 年には 12 歳児の永久歯のう蝕は半減され、毎日 1 回は必ず歯を磨く歯磨き習慣はトンガ人歯科スタッフの手により確立された。

その中で、乳歯う蝕の予防と第 1 大臼歯のう蝕予防が課題となり、サフォライド塗布と第 1 大臼歯シーラント予防充填と村での保護者への啓発活動、トンガスタッフのためのマニュアルと小学 4 年生の教科書の作成を行った。結果トンガ人の手による村、幼稚園での巡回活動は自立して行われている。

又、障がい者施設(ディサービス施設 OTA 及び入所施設 ALONGA)への歯科保健活動の取り組みも行い毎週トンガ人歯科スタッフは施設を訪問し口腔ケアを行っている。

更に子供の健康を更に推進するには、保護者成人への取り組みが重要と考えた。トンガ人の大きな問題は、世界でも 1 位、2 位と言われている肥満とそれに伴う糖尿病、心循環器疾患であり、その点に着目し、現在では歯周病の初期治療からアプローチをして、生活習慣を改善し生活習慣病の予防に取り組みトンガ人の健康に寄与したいと活動している。

1998 年から現在までの取り組みについて順を追って概略を述べたい。

## **The activity of South Pacific Medical Team (SPMT) in the Kingdom of Tonga**

### **South Pacific Medical Team Kohji kawamura**

South Pacific Medical Team (SPMT) has been conducting volunteer activity in the Kingdom of Tonga since 1988. Our activity started as oral health promotion in primary school that introduced fluoride mouthrinsing. The promotion was named by Tongan as Malimali, a 'smile' in English, Program and succeeded to reduce the number of permanent tooth caries in twelve-years-old students to 50% at 2011. Through the promotion, furthermore, Tongan dental staff established the acquisition of the habit of every day tooth brushing in primary school students.

The first period of the promotion, the issues were the caries prevention for both deciduous teeth and the first molars. To obtain better outcome, the application of diamine silver fluoride to deciduous tooth caries to interrupt the progress of caries, the application of fissure sealant to the intact first molar as caries prevention, the oral health care enlightenment for guardians and the publication of the instruction of oral health care to both Tongan staff and grade four students were held. Now, the oral health investigation tour to villages and kindergartens by Tongan staff has been independently managing.

Our promotion is expanded to the institution, both daycare (OTA) and stayover (ALONGA), for disability patients. Tongan dental staff weekly visits those institutions for oral health care.

Moreover, the importance of health of guardians to maintain good result of children's oral health has been focused recently. The current health issues of Tongan adults are world-top-class obesity rate and high rates of the patients with diabetes mellitus and/or cardiovascular diseases. We, now, progress the campaign to conserve oral health in Tonga by treatment for periodontal disease to provide improvement of adult's life style as well as their health.

The summary of our volunteer activity in Tonga from 1998 to current will be introduced.

## 歯科衛生士として出来る技術移転

南太平洋医療隊 鈴木千鶴

2006年に私が南太平洋医療隊に加入した頃、当初のプロジェクトである学校歯科保健活動(Malimali Program)はトンガ王国の全小学校に普及しつつありほぼ軌道に乗っている状況であった。

そこで私がやるべき事は何か活動しながら模索していた。初めは国内での物品の準備や、現地で小学校を訪問し歯磨き指導やフッ化物洗口の手伝い、フェスティバル開催時の歯科保健指導などであった。学校や施設では、トンガ人歯科スタッフが子供や大人達に熱心に歯科保健指導を行っていた。次第に「自分のやるべき事」ばかり考えるのではなく、相手国が自立できるよう「これはトンガ人歯科スタッフがやるべき事」という考えで行動をしていかなければと気づかされた。予防の大切さはもちろんのこと、自立支援の重要性を改めて考えさせられた。

2013年より「口腔保健のアプローチから生活習慣病を改善するプロジェクト」を開始し、う蝕予防から歯周病予防の技術移転へとステップアップしている。今までトンガ王国では歯周病処置がなされずに、抜歯されているケースが多く、患者自身も歯を抜かずに残すという考えを持たずにいた。その中で、歯を保存するために私は歯科衛生士の専門分野である歯周病予防処置の技術を活かして、トンガ人歯科スタッフに技術移転を行った。

これまでの私の活動経験を皆さんにお伝えし、少しでも役に立てただけたらと思う。

## **The Transference of Technology which can be done as a dental hygienist**

**South Pacific Medical Team     Chizuru Suzuki**

When I joined the South Pacific medical team in 2006, the school-based dental health project “Malimali Program” was the first project which had spread to all primary schools at the Kingdom of Tonga. Moreover, the “Malimali Program” had become popular almost immediately.

While I was participating in this successful program, I started to think about developing a new activity. At first, I prepared all the necessary supplies in Japan. Then at Tonga, I visited Tonga primary schools and taught about tooth-brushing and fluoride mouth-rinsing. And an oral festival was held to give advice about oral health care.

Both at schools and other facilities, the Tonga staff was ardently instructing about oral health care procedures to children and adults. While doing all these activities, I realized that Tonga staff should learn about dental health care procedures themselves and then pass this knowledge to their own people. Preventive health care is so important, however, dental care support plays a more critical role so Tonga people can take care of their own dental health.

“The project for improving adult’s lifestyle approach from oral health in the Kingdom of Tonga” begun since 2013. The technology transference of the prevention of periodontal diseases from the dental caries prophylaxis as well as the step-up have improved. The preventive treatment of the periodontal disease had not been done in the Kingdom of Tonga until now. Therefore, either the idea of the patient’s tooth not being extracted or leaving the tooth in its place did not exist before. The technology of the preventive treatment of the periodontal disease is of great importance for the Tongan staff.

I am glad to have shared this experience with all of you. And I hope my experience can be useful to you too.



## トンガ王国から学んだ、途上国における歯科保健の方向性

南太平洋医療隊 河村サユリ

小学生、就学前幼児のう蝕予防を対象に、進めてきた歯科保健活動を更に中高生、成人へと広げたマリマリプログラム（歯科保健活動の愛称）の現況から得た知見を共有しましょう。

「2～3本むし歯が有るみたいだけどこの程度なら、痛くないし、歯医者に行くのは面倒」「歯肉が腫れた、歯みがきすると血が出るし、触れなければ痛くないから様子を見よう」等々日本でも経験する患者心理。ましてこの状況を不健康とは考えないでしょう。これがトンガ王国だと、「やっかいな歯は抜いてもらおう」「患者の選択なので、抜きましょう」歯科診療費は無料な上、当日で問題解決！と歯科スタッフも患者も考える。

トンガ王国は経済的には中進国に位置づけられているが、成長率は0%、物価上昇率は0.6%と裕福とはいえない。少ない予算でより良い医療を提供するには、国民の健康度を上げる必要がある。トンガ王国は世界有数の肥満大国であり、糖尿病罹患率も高く、ひいては心循環器系疾患に移行する非感染性疾患(NCD)が高い死亡原因となっている。炭水化物や高脂肪食品に偏った食習慣や運動不足といった生活習慣に一因有ると考える。2013年より開始した活動では、中高生、成人の歯科検診に加え、BMI測定、血圧、血糖値など、医科スタッフと協働し、現況を知ると同時に、疾病の早期発見、早期治療に道を開いた。口腔機能を維持するために、う蝕処置のみならず歯周病予防、改善が大切であることを啓発している。学童のう蝕予防から「口腔保健のアプローチから生活習慣病改善するプロジェクト」に至った活動の今を語ります。

## **Directionality of oral health in developing country learnt from Kingdom of Tonga**

### **South Pacific Medical Team Sayuri Kawamura**

South Pacific Medical Team (SPMT) has been continued of the oral health activity ( Mali Mali program) for school-children and infant. SPMT expanded oral health activity to the high school students and the adults too. Let's share the finding that we obtained.

“I do not visit the dentist because I am not painful though am dental caries of 2-3 teeth.”“The appearance is seen though my gingiva is swollen, and there is a hemorrhage, too.” It is an event also in Japan that is often. The mentality of patient. A lot of people don't think their dental caries or periodontal diseases to be unhealthy.

There are a little different situation in Kingdom of Tonga. “The patient wants to pull out his painful teeth.” “Dental staffs accept the patient's hope.” Because the treatment fee is free, and is solved the problem on that day, the extraction becomes the best choices. An economical rank of Kingdom of Tonga is a semi-advanced country. The economic growth rate is 0%, the inflation rate is 0.6%, and the people are poor. The budget of Ministry of Health of Kingdom of Tonga is few. Cost performance of the preventive activity is good in the medical treatment. It is necessary to raise the health degree of Tongan. Tongans are world-top-class obesity.

Noninfectious diseases (NCD) are in the high rank of the cause of the death in Kingdom of Tonga. The diet habit is too an intake of the calorie-rich food. It is lack to take exercise too. SPMT thought that this lifestyle is a cause of obesity. In the activity that began in 2013, the BMI measurement, the blood pressure, and the blood sugar level, etc. in addition to the dental examination were added to the high school students and the adults. SPMT was screened in cooperation with the medical science staff. The way was opened in earlier detection and the early treatment of the disease. It has been enlightened that not only dental cavity treatment but also the prevention of periodontal diseases and the improvement are important because the oral function is maintained.

It talks about that arrives from school- children prevention activity at "The project for improving the lifestyle approach from oral health in Kingdom of Tonga".

第26回齒科保健医療國際協力協議會學術集會

# 學生部門抄錄



## 学1 「第15次台湾スタディツアー事業報告」

○倉澤馨<sup>1)</sup>, 浅野一磨<sup>1)</sup>, 池田彩音<sup>1)</sup>, 鯨井桂子<sup>1)</sup>, 松浦葵<sup>1)</sup>, 高橋謙次郎<sup>2)</sup>, 尤雅田<sup>2)</sup>,  
吉原侑希<sup>2)</sup>, 小池将人<sup>1)</sup>, 上野琴美<sup>1)</sup>, 大和田碧<sup>1)</sup>, 眞木吉信<sup>1)</sup>

1) 東京歯科大学国際医療研究会 2) 明海大学歯学部

期間：2015年3月16日—3月22日 活動場所：台湾（台北）

訪問場所：陽明大学、陽明大学附属病院、台北榮民総醫院、宜蘭県

今回で15回目となる本事業では中華民国（台湾）を訪問した。この企画では、全ての学年の学生を参加の対象としているため、歯学部生としては非常に早い段階から国際協力に興味や関心を持つことが可能になる。今回は現地において、大学生207名を対象とした歯科に関する意識調査の実施や、2日間にわたるクリニカルクラークシップの体験等、例年の内容に加えて様々な活動を行った。特に意識調査は、本事業で今後も継続して実施することにより、将来的にはアジアの地域ごとにデータの比較検討ができることを期待している。そこで、学生が主体となって国際協力について考えた本事業の活動報告および実施した調査の結果とその考察について発表する。

### 15<sup>th</sup> study tour for community dental health in Taiwan

○Kaoru Kurasawa<sup>1)</sup>, Kazuma Asano<sup>1)</sup>, Ayane Ikeda<sup>1)</sup>, Keiko Kujirai<sup>1)</sup>,

Aoi Matsuura<sup>1)</sup>, Kenjiro Takahashi<sup>2)</sup>, Yu Ya-Ten<sup>2)</sup>, Yuki Yoshihara<sup>2)</sup>,

Masato Koike<sup>1)</sup>, Kotomi Ueno<sup>1)</sup>, Aoi Owada<sup>1)</sup>, Yoshinobu Maki<sup>1)</sup>

1) Student Association of Tokyo Dental College for International Oral Health

2) Meikai University of Dentistry

#### 【Outline of this project】

Period: 16 -22 March, 2015 Visited country: Taiwan (Taipei)

Visited places: National Yang Ming University, University of Yang Ming hospital, Taipei Veterans General Hospital, Yilan area

In this 15<sup>th</sup> study tour, we visited Taiwan for seven days. All grader students of dentistry can participate in this program, and that enables us to think and do for international oral health. We went around Periodontics, Prosthodontics, Pediatric Dentistry, and Endodontics, and observed treatment at Taipei Veterans General Hospital. We also did the survey about dental areas, and could get 207 college students' data at Yang Ming University. So we would like to show what we did and what we came to learn from that examination.

## **学2 国際保健部の活動について**

○伊藤由李子, 新崎啓介, 加藤利奈, 栗栖諒子  
日本大学松戸歯学部国際保健部

私たち国際保健部は部活発足から10年が経ちました。この10年間で南太平洋医療隊の河村先生が隊長をつとめていらっしゃるトンガ王国での歯科保健活動や Asia Pacific Dental Student's Association (APDSA) への参加、埼玉県吉川市でのフロリレーション啓発活動など様々な活動をしてきましたが、近年は世代交代がうまくいかず、活動としては APDSA への参加のみで国際保健部としての活動が出来ていませんでした。しかしここ2年で部員数が大幅に増えたことで活気を取り戻し、また昨年8月に OB、OG、学生入り交えて合宿を行ったことで結束を強めることができました。この機会に今年からは OB、OG の先生方のアドバイスを参考に、従来の国際保健、国際交流活動に加えて、国内での活動を新たに始めようと考えております。今回は私たち国際保健部の今後の展望について、また各部員が考える国際協力や国際協力で行いたいこと、実際に参加したことのある学生についてはその感想などをインタビューした内容を発表したいと考えています。

### **The Activities of International Health Club**

○Yuriko Ito, Keisuke Arasaki, Rina Kato, Ryouko Kurisu

International Health Club, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

We, the members of International Health Club, have participated in the following activities for oral health improvement for 10 years: the activities by Dr. Kawamura and the members of South Pacific Medical Team; the meeting of Asia Pacific Dental Student's Association (APDSA); the activities for the fluoridation education in Yoshikawa-shi of Saitama. Recently, because the club members were decreased, the only our activity was the participation in APDSA. However, now our club became again an active, and we are going to challenge the new actions referring to the advices of OB and OG this year and in future. In this presentation, we report our past experiences, the future prospects, our ideas about international cooperation action.

Our international health club has passed since '10 from the inauguration. This time we would like a presentation on such impressions that tried to the past activities reports and you want to be and international cooperation activities to do each staff in reason and international cooperation that have an interest in international cooperation and international cooperation to think.

### **学3 創設 10 年から考える学生団体の国際保健医療について**

○村田亜志美留, 齋藤孝平, 鈴木志帆美, 金武正二郎, 葛生悠貴, 千生倫,  
柳川亜美  
神奈川県立歯科大学国際医療ボランティア研究会

2015年6月で設立10年を迎えた。本団体は『国際保健・日本の医療に貢献できるような広い視野を持った人材育成』を目的として10年間活動をしている。過去の海外活動を振り返ると、『海外へ行って歯科治療をみてみたい』、『国際医療をやってみたい』、『国際保健をやってみたい』という時期を経てきた。しかし、活動5~6年で、学生海外活動の限界を感じた。『学生の国際保健医療』とは一体なんなのだろう?という疑問にぶつかった。

現地の学生と国際保健活動を行ったこと、その他の国内活動や過去の活動を振り返ったことで、現在では、『学生の国際保健医療』にとって①knowing、②attitude、③thinking、④base、が重要であるという結論に至った。

#### **For International Health of student organizations**

○Ashimiru Murata, Kohei Saito, Shihomi Suzuki, Kin Syoujiro, Kuzuu Yuki,  
Sen kirin, Ami Yanagawa  
Kanagawa Dental University, Student Association for International Health

By June 2015, our foundation has reached its 10th year. Our foundation has been carrying this objective while doing our activities for 10 years, [Human Resource Development is to have a wide field of vision, also to contribute in, International health and Japan's medical care]. Looking back to our activities abroad, we have come to a period where it starts from "wanting to go abroad and see its dental treatments" to "wanting to experience international medical care" and lastly "wanting to know International health". However these few years we have come to a question of what "International Health Medical Care for students" really is.

By looking back to our past domestic activities and International activities with the local students, our current conclusion is ①knowing, ②attitude, ③thinking, ④base are important for "International Health Medical Care for students".

## 学4 北海道大学冒険歯科部のあゆみ

○萩野谷大, 実藤 潤, 橋本理紗, 池上なつみ, 川村桜, 三浦和仁, 三原竜太郎,  
矢後亮太郎, 本多丘人, 滝波修一  
北海道大学歯学部冒険歯科部 北海道大学歯学部

北海道大学歯学部のサークルである冒険歯科 (IDAH) は2002年、滝波らにバングラデシュ歯科医学会設立式典への招聘があったのを機に、Bangladesh Study Tour2002を企画し、組織的な活動を開始した。

2003年には、Sri Lanka Study Tour2003を行い、2004年にはMalaysia Study Tour 2004、2005年にはUNESCOから支援を受けてBangladesh Study Tour 2005を行ない、その後JICA草の根事業支援活動をバングラデシュで行いながら、他国との交流事業を展開している。

Study Tourの目的は、発展途上国における歯科大学を訪問し、歯科教育の現状を実体験するとともに歯科の学生同士の交流を通じて相互理解を深めることである。また、可能なかぎり、一般人レベルの生活体験をし、その国の文化や国民性を理解することでもある。

### **The' history of Interactive Dental student's Alliance for Health care**

○Dai Haginoya, Jun Sanefuji, Risa Hashimoto, Natsumi Ikeue,  
Sakura Kawamura, Kazuhito Miura, Ryutaro Mihara, Ryoutaro Yago,  
Okahito Honda, Shuuichi Takinami  
IDAH(Interactive Dental students' Alliance for Health care)  
School of Dentistry, Hokkaido University

In 2002, IDAH which is the group of the school of dentistry Hokkaido university started organized activity for Bangladesh Study Tour 2002, by the trigger of Dr.Takinami having been invited to the dental society establishment ceremony in Bangladesh.

We carried out Sri Lanka Study Tour 2003, Malaysia Study Tour 2004 and Bangladesh Study Tour 2005. We received supported from UNESCO. We continue that JICA working on business support in Bangladesh at grassroots level since then ,and interchange with other country.

The purpose of study toor is to experience the present conditions of the dental education by visiting the dental college of developing countries, and to promote understanding of each other by interactive dental students' alliance for health care. Furthermore we live the local people and experience it as much as possible, to understand their culture and the national character of the country.

第26回齒科保健医療國際協力協議會學術集會

# 一般演題抄錄





## **O-1** ミャンマー連邦共和国における口唇口蓋裂患者への医療協力

○夏目長門<sup>1) 2)</sup>

愛知学院大学歯学部口腔先天異常研究室  
特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

我々は1994年に現地調査を開始した。

当時のミャンマーでは一人の外科医が口唇口蓋裂手術を独占的に行っており多くの口唇口蓋裂患者は放置されたままであった。そこで、1995年より九州大学歯学部田代英雄名誉教授、大関悟准教授（当時）を中心に鹿児島大学歯学部川島清美先生、吉田雅司先生を中心に東京歯科大学歯科麻酔科の先生も参加して頂き、ミャンマー医療援助が開始された。当時同国唯一のヤンゴン歯科大学には手術室もなく倉庫として使用されていた。我々は診療室を急遽改造してヤンゴン歯科大学で初めての口唇口蓋裂手術と全身麻酔を実施し、現地、歯科医師への技術移転を行った。これまで20年間で20回の診療隊の派遣を行ったのでその成果を報告する。

【謝辞】

これまでご協力頂きました両国政府ならびに関係各位に深謝いたします。

## **Medical Cooperation between Republic of the Union of Myanmar and Japan for Patients with Cleft Lip and/or Palate**

○Nagato Natsume<sup>1) 2)</sup>

1) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi Gakuin University

2) Japanese Cleft Palate Foundation

We started field survey in Myanmar in 1994. In those days in Myanmar, only one doctor performed surgery on cleft lips and palates, leaving majority of patients untreated.

We started offering medical assistance for patients with cleft lip and/or palate (CLP) in Myanmar in 1995. Emeritus professor Hideo Tashiro, Faculty of Dentistry, Kyushu University, Associate Professor Satoru Ozeki, Faculty of Dentistry, Kyushu University (at the time), Drs. Kiyomi Kawashima and Masashi Yoshida, Faculty of Dentistry, Kagoshima University, were the core members. An anesthesiologist from Department of Dental Anesthesiology, Tokyo Dental College also joined and helped the team. Institute of Dental Medicine, Yangon, the only Dental College in Myanmar at the time, had no operation rooms and we hurriedly converted a consultation room, which had been used as a stock room, into an operation room. We performed the first operation of CLP at Institute of Dental Medicine, Yangon, under general anesthesia for the first time at the Institute. The operations brought technology transfer to Burmese dental surgeons.

We have sent the medical team to Myanmar 20 times for the last 20 years. I will report the achievement of the medical aid.

### **Acknowledgements**

I would like to express my deep gratitude to the two governments and to all persons concerned.

## 0-2 日本の歯科分野の国際交流における戦略的対応の中での口腔

### ケアの重要性について

○夏目長門<sup>1) 2)</sup>, 鈴木俊夫<sup>1) 3)</sup>, 鈴木聡<sup>1) 2) 3)</sup>, 井村英人<sup>1) 2)</sup>,  
牧野日和<sup>1) 4)</sup>, 池上由美子<sup>1) 5)</sup>, 山中克己<sup>1) 6)</sup>, 青柳公夫<sup>1) 7)</sup>, 砂川元<sup>1) 9)</sup>,  
服部正巳<sup>1) 8)</sup>, 新崎章<sup>1) 9)</sup>

- 1) (社) 日本口腔ケア学会
- 2) 愛知学院大学 歯学部 口腔先天異常学研究室
- 3) 医療法人 鈴木歯科医院
- 4) 愛知学院大学 心身科学部 健康科学科
- 5) がん・感染症センター都立駒込病院 歯科口腔外科
- 6) 名古屋学芸大学 管理栄養学部
- 7) 青柳歯科医院
- 8) 愛知学院大学 歯学部 高齢者歯科学講座
- 9) 琉球大学医学部歯科口腔外科

日本の歯科分野の国際交流は多岐にわたる。

その中でも口唇口蓋裂については白人に比べ黄色人種において患者数が圧倒的に多い。それに伴い日本の治療技術は欧米よりも高く、国際協力において優位な環境であることから国際口唇口蓋裂協会の本部も日本に設置されている。国際協力においては日本が国際的に高い評価のある技術や知識にニーズが集中している。

我々は日本の国際協力における歯科分野での新たな戦略の要として超高齢者社会の中で飛躍的に発展している口腔ケア分野に注目して新たな歯科国際協力の柱とすべく(社)日本口腔ケア学会ならびに日本口腔ケア協会が協力して国際協力5ヶ年計画を立案実施しているので概要を報告する。

## **The strategic importance of oral health care for international medical exchange in the field of dentistry in Japan**

○Nagato Natsume<sup>1) 2)</sup>, Toshio Suzuki<sup>1) 3)</sup>, Satoshi Suzuki<sup>1) 2) 3)</sup>,  
Hideto Imura<sup>1) 2)</sup>, Hiyori Makino<sup>1) 4)</sup>, Yumiko Ikegami<sup>1) 5)</sup>,  
Katsumi Yamanaka<sup>1) 6)</sup>, Kimio Aoyagi<sup>1) 7)</sup>, Hajime Sunakawa<sup>1) 9)</sup>,  
Masami Hattori<sup>1) 8)</sup>, Akira Arasaki<sup>1) 9)</sup>

- 1) The Japanese Society of Oral Care
- 2) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi Gakuin University
- 3) Suzuki Dental Clinic Medical Corporation
- 4) Department of Health Science, Faculty of Psychological and Physical Science, Aichi Gakuin University
- 5) Department of Dentistry/Oral Surgery, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital
- 6) Nagoya University of Arts and Sciences, School of Nutritional Sciences
- 7) Aoyagi Dental Clinic
- 8) Department of Gerodontology, School of Dentistry, Aichi Gakuin University
- 9) Department of Oral & Maxillofacial Functional Rehabilitation, Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus

Many fields of international medical exchanges in the field of dentistry have been performed by Japanese people and organizations.

Among those fields, Japan has strong advantage in cleft lip and/or palate (CLP). The number of CLP patients of Mongoloids is far larger than of Caucasians, bringing Japanese treatment technique being better than that of Western countries. For that reason, the head office of International Cleft Lip and Palate Foundation (ICPF) is in Japan.

In international exchanges, knowledge and technologies of which Japan has high reputation attract the interest of people overseas.

The knowledge and technologies of oral care has been improved drastically in Japanese super ageing society. Japanese Society of Oral Care and Japanese Oral Care Foundation coordinate to implement a five-year plan to spread the knowledge and technologies of oral care developed in Japan all over the world. Their plans, we believe, should strategically be one of the key issues in international exchange in the field of dentistry.

We outline the five-year plan in this presentation.

## **O-3 エチオピア民主共和国での学術調査報告 2014 年度**

○山内楓子<sup>1)</sup>，新崎 章<sup>2)</sup>，西原一秀<sup>2)</sup>，又吉 亮<sup>2)</sup>，長島有毅<sup>2)</sup>，岐部俊郎<sup>3)</sup>，  
高橋直樹<sup>4)</sup>，大野磨弥<sup>1)</sup>，古川博雄<sup>1)</sup>，夏目 長門<sup>1)</sup>

1) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常研究室

2) 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科

3) 鹿児島大学病院口腔顎顔面外科

4) 千葉県がんセンター麻酔科

現在口唇口蓋裂における発現頻度は人種間で大きく相違することが知られている。

疫学的には白色人種より黄色人種に高頻度で見られ、黒色人種ではもっとも頻度が低いと言われている。(黄色人種 1/500 人、白色人種 1/1000 人、黒色人種 1/2000 人)

しかし黒色人種の口唇口蓋裂の発症率が少ないのは“まびき”や“劣悪な医療環境により患児が育成出来ないことに起因しているのではないかと考え、エチオピア民主共和国において2015年2月16日から25日まで学術調査を実施した。

今回出産の状況を中心に行った。(22 家族を対象に調査。自宅で出産 16 件、病院で出産 2 件、不明 4 件。)

現在エチオピアの生活環境や経済状況などから出生数が正確に数えられていなかったり、口唇口蓋裂で生まれた子供に対し生まれてすぐに適切な治療がなされていないのではないかと考えられる。

科学研究補助金 基盤研究(A) エチオピア先天異常児の実態調査 一いわゆるまびき撲滅をめざして一 課題番号 26257509

## **Academic research report 2014 in Ethiopia Democratic Republic**

○Yamauchi Fuko<sup>1)</sup>, Arasaki Akira<sup>2)</sup>, Nishihara Kazuhide<sup>2)</sup>, Matayoshi Ryo<sup>2)</sup>, Nagashima Yuuki<sup>2)</sup>, Kibe Toshiro<sup>3)</sup>, Takahashi Naoki<sup>4)</sup>, Ohno Maya<sup>1)</sup>, Furukawa Hiroo<sup>1)</sup>, Natsume Nagato<sup>1)</sup>,

1)Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi Gakuin University

2)University of the Ryukyu University Hospital Dental and Oral Surgery

3)Kagoshima University Hospital Oral and Maxillofacial Surgery

4)Chiba Cancer Center Anesthesiology

Incidence rate of cleft lip and palate is known to differ significantly among races.

Cleft lip and palate are known to be seen more frequently among yellow race than white race, and most infrequently among black race. (1/500 people among yellow race, 1/1000 people among white race, 1/2000 people among black race.)

We suspected, however, that the low incidence rate of cleft lip and palate among black race is due to “thinning” or unethical abortions, or due to poor medical environment which could lead to early deaths of the patient children in Ethiopia.

We carried out academic research in Federal Democratic Republic of Ethiopia in February, 2015.

We investigated the current situation surrounding 22 families in which a baby with cleft lip and/or palate had been born.

Sixteen of the babies were born at home, 2 were born at hospital, and 4 were born at unknown places.

Given the living environment and economic conditions, we suspect that the records of the number of births are unreliable, and adequate treatment of cleft lip and palate at an early age is not available for majority of patients in Ethiopia.

## ○-4 トンガ王国における SPMT の内科学的検診と啓発活動

○内野和顕<sup>1,2)</sup>, 河村サユリ<sup>1,3)</sup>, 河村康二<sup>1,3)</sup>

- 1) 南太平洋医療隊
- 2) 横浜市立大学医学部非常勤講師
- 3) カワムラ歯科医院

発展途上国の内科診療の中心は常に感染症診療であり、心血管疾患は重視されない。トンガでの死亡原因の約 50 %は心血管疾患および糖尿病と推定されるが、専門医が不在で血管造影装置もないため、本格的な治療は国内では不可能である。ところで心血管疾患発症には危険因子として高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病が関与しているので、生活習慣病管理による心血管疾患の発症予防が特に重要である。SPMT では検診時に血圧、血糖、BMI を測定すると共に、生活習慣病予防に関する知識普及を行っている。特に糖尿病は動脈硬化を促進するだけでなく、歯周病の発症、進展に深く関与するので SPMT としては重要と考えている。

検診結果からトンガにおいては多数の高血圧、耐糖能異常が存在し、かつ未治療なことが判明した。治療の前提としての生活習慣の修正が必要である。肥満症については BMI 25 以上を肥満とする日本基準、30 以上の WHO 基準の適用では、トンガ人のほとんどが肥満となるので、ニュージーランドで使用されている 32 以上を肥満とするマオリ族基準値をトンガ人用基準値とすべきだと考えられた。

## **SPMT has been practicing the noncommunicable (life-style related) disease awareness program in the Kingdom of Tonga**

○Kazuaki Uchino, Sayuri Kawamura, Koji Kawamura

South Pacific Medical Team

Like other developing countries, the main healthcare service of the Kingdom of Tonga is focused on communicable diseases. However, cardiovascular disease is the highest cause of death in Tonga. Nevertheless, because of the lack of fundamental medical equipment like cardiovascular angiogram, severe cardiovascular diseases treatment is not applicable in Tonga and patients have been transferred to New Zealand or Australia. Thus, the reduction of the occurrence rate of cardiovascular disease is necessary in Tonga. The more one suffers from noncommunicable diseases like hypertension, diabetes, and obesity, the more cardiovascular diseases prevails. These noncommunicable diseases are called risk factors of cardiovascular disease. In addition, among other thing, we SPMT team has been recognizing diabetes as a strong risk factor of periodontal diseases.

As a result, the best way to reduce cardiovascular disease is let Tongan people aware the importance of prevention and treatment of hypertension, diabetes and obesity.

To this aim, SPMT has been practicing the medical check up activities about blood pressure, blood sugar level, and Body Mass Index (BMI) along with conducting series of workshops about the noncommuicable diseases.

The results of our medical check up revealed that there exist a large percentages of hypertensive, diabetic and/or obese population in Tonga. It is also revealed that majority of those patients are without self-awareness and medical treatment. We consider the obese criterion of WHO is not useful in Tonga. The obese criterion more than 32 used for Maori people must be useful to Tongan people.



## 0-5 南太平洋医療隊のトンガでの支援活動に参加して

○原 幸子<sup>1)</sup>，遠藤眞美<sup>1, 2)</sup>，竹内麗理<sup>1, 3)</sup>，松本京子<sup>1, 4)</sup>，小林清吾<sup>1, 5)</sup>，  
鈴木千鶴<sup>1, 6)</sup>，河村サユリ<sup>1, 6)</sup>，河村康二<sup>1, 6)</sup>

- 1) 南太平洋医療隊
- 2) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 3) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 4) 日本大学附属病院
- 5) 日本大学客員教授
- 6) カワムラ歯科医院

一般診療や障害者歯科診療、訪問歯科医療等に従事し 35 年を迎え歯科衛生士としての集大成を模索していた折、トンガで歯科医療支援活動に参加されている歯科医師の先生に南太平洋医療隊の活動の紹介をしていただき、自分にとって新たな歯科衛生士活動を学びたいと 2008 年 8 月、2011 年 7 月に参加した。

トンガでの活動はバイオラ病院の歯科医師の呼びかけで始まった「マリマリプログラム」幼稚園、小学校での歯科検診と歯科保健活動歯磨き指導、フッソ洗口の指導実施、歯科器材の寄贈を行っている。また保健所での指導として母子手帳作成。また、

小学校の特殊学級、通園の障害児・者の施設での歯科検診、歯磨き指導、食事指導及び歯ブラシの寄贈や施設で使用できる媒体作りに毎日訪問し活動した。フリーマーケットでオーラルフェスティバルを 2 回行ない歯科検診、保健指導、フッ化物塗布、医師による身長・体重測定、血圧・BMI 測定と生活習慣についての個人指導を実施した。

歯科検診受診者 102 名、参加者 136 名と盛況なフェスティバルとなった。スタッフとしてトンガの歯科医師 3 名、デンタルセラピスト、5 名、デンタルセラピストトレーニー 2 名の参加も得られ実施した。

学校歯科保健がほとんど行われていなかったトンガにおいて 1998 年から南太平洋医療隊はトンガ健康省、教育省への働きかけ、歯科スタッフ・教育省関係者へのワークショップの開催し健康教育を実施してきた。現在トンガ国内では、心筋梗塞・脳卒中などの心臓血管病、ガン、喘息や肺気腫など慢性肺疾患・糖尿病などの克服活動に目を向け、健康に対する意識を高めてきている。

南太平洋医療隊の活動は、トンガにおいて単に歯科医療だけでなく国民の健康支援に波及している。南太平洋医療隊に参加して指導・協力・共に行動する歯科保健支援活動を再認識できた。

## 0-6 トンガ王国における成人健診の結果からの考察

○竹内麗理<sup>1,2)</sup>，遠藤眞美<sup>1,3)</sup>，内野和顕<sup>1,4)</sup>，田口千恵子<sup>1,5)</sup>，小林清吾<sup>1,6)</sup>，  
横山恭子<sup>1,7)</sup>，鈴木千鶴<sup>1,7)</sup>，河村サユリ<sup>1,7)</sup>，河村康二<sup>1,7)</sup>

1)南太平洋医療隊，2)日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座，

3)日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

4)横浜市立大学医学部非常勤講師

5)日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座，6)日本大学客員教授，

7)カワムラ歯科医院

南太平洋医療隊(SPMT)は、トンガ王国(トンガ)において保健活動「MaliMali Program」を実施している。トンガは世界有数の肥満国であり、生活習慣病が大きな問題とされている。そこで2014年、成人への健康診査(成人健診)を行い、トンガ人の全身の健康状態について考察したので報告する。成人健診は、SPMTの内科医師他とトンガ歯科スタッフが行った。20-59歳のトンガ人73名を対象に、身長、体重、腹囲、血圧を測定し、肥満度(BMI)を算出した。本研究は九州歯科大学研究倫理委員会の承認(承認番号13-47)を得ている。トンガ成人の平均腹囲は102.7cmであった。BMI30以上の者は、20-29歳66.7%、30-39歳85.0%、40-49歳76.9%、50-59歳88.9%であった。血圧140/90mmHg以上の者は、20-29歳27.8%、30-39歳45.0%、40-49歳53.8%、50-59歳44.4%であった。トンガ成人の約80%が肥満であることを確認した。

## **A study of adult health problems in the Kingdom of Tonga**

OReiri Takeuchi, Mami Endoh, Kazuaki Uchino, Chieko Taguchi,  
Seigo Kobayashi, Kyoko Yokoyama, Chizuru Suzuki,  
Sayuri Kawamura, Kohji Kawamura  
South Pacific Medical Team

We, the members of South Pacific Medical Team (SPMT), perform the “MaliMali Program” in Tonga. Tonga has problems of obesity and lifestyle disease. The SPMT members (including the medical doctor) and the Tongan dental staffs performed the health examination to Tongan adults in 2014, and studied about their condition. The 73 Tongans, the age of 20-59, were measured height, weight, waist circumference, blood pressure, and BMI. This study was approved by the Committee on Studies Involving Human Beings of the Kyushu Dental University (13-47). The average of the waist circumference was 102.7 cm. The percentages of persons with BMI 30 and over were 66.7 at the age of 20-29, 85.0 at 30-39, 76.9 at 40-49, 88.9 at 50-59. The percentages of 140/90 mmHg and over were 27.8 at 20-29, 45.0 at 30-39, 53.8 at 40-49, 44.4 at 50-59. The 80% of Tongan adults may be the obesity.

## **○-7** サモアの小学校における予防プログラムの実施について

○浦崎裕之  
浦崎歯科医院

2012年6月以来これまで計7回サモアに訪問し、サバイ島の Saipipi primary school にてう蝕予防プログラムを実施してきました。生徒数は1年生から8年生まで約160名です。2013年4月に1回目の診査をおこなって以来、年に一度これまで計3回おこなっています。また2013年9月以来週1回法にてフッ素洗口を実施し、半年に一度学校にてTBI、シュガーコントロールなどについて指導しています。来年には2つの小学校で診査、フッ素洗口を始める予定です。そして今後水道水のフッロリレーションも視野に入れ活動していく予定です。今回はプログラムの目的、経過、これからの展望についてお話しさせていただきます。

### **Dental program in the primary school in Samoa**

○Urasaki Hiroyuki  
URASAKI DENTAL CLINIC

I'm especially interested in the prevention of dental caries in young people. If we can prevent them when they are young, the chance they will develop caries is very low when they become adult . We have to start prevention at an earlier stage. It is more effective.

The importance of effective use of fluoride for the prevention of dental caries has been proven. I believe the only and effective way for the prevention of dental caries is the use of fluoride. I think fluoride should be used in Samoa. Promoting oral health with the use of fluoride is necessary, especially for children.

## 〇-8 善意で貧困はなくせるか？

〇田中健一

がけっぶち予備校

フランスの経済学者・ピケティの「21世紀の資本論」がアメリカのみならず日本でも大きな反響を呼んだのは、新自由主義的価値観が政治・経済分野への広がったため、どこの国においても格差が拡大し、漠然とした将来への不安感がどの層にも広がったことが背景にある。

この格差問題は日本国内のみならず、先進国と途上国の間にも広がっている。国際協力を行う目的には「博愛と国益」という、異なる軸が存在し、それぞれの立ち位置によりこの命題は神学論争になりやすい。そのため、目指すゴールも違ったものになりやすい。国際協力では big push 論のジェフリー・サックスとガバナンス重視のウィリアム・イースタリーの二大論客がいるが、経済成長を志向している点では共通である。

今後は保健医療に携わる諸団体も健康指標の改善というシングルイシューをこえ、産業育成、商業の活性化といった経済成長も視野にいれた協力が求められる。

## **0-9** ポンホン地区看護師を対象とした口腔保健能力向上プロジェ

### クト

○谷野弦<sup>1-3)</sup>，持田寿光<sup>1)</sup>，渡辺一騎<sup>1)</sup>，佐藤貴映<sup>1)</sup>，高山史年<sup>1)</sup>，小峰一雄<sup>1)</sup>，  
宮田隆<sup>1)</sup>

1) 歯科医学教育国際支援機構

2) 名戸ヶ谷病院

3) 日本大学松戸歯学部口腔外科学

#### 【緒言】

歯科医学教育支援機構は外務省無償支援事業に採択されラオス人民民主共和国にて活動中である。アジア諸国のほとんどではデンタルナース制度が確立しているが、ラオスには同システムはない。そこで、デンタルナースの代替として看護師学校(以下 TNS)の学生に歯科口腔保健をカリキュラムとして導入、また同地域の看護師に対して歯科・口腔保健についての知識や技能の技術移転を介し、地域住民に対して歯科・口腔疾患保健活動を担ってもらうことで健康被害を防ぐことが必要である。

#### 【活動内容】

第1フェーズでは、口腔の健康増進を提供するための基本的なシステムを確立するためにTNS教員や看護師、学生に技術移転を行い、教科書の作成や日本人専門家による講義を行った。現在、第2フェーズでは、地域住民を対象とし、デンタルナース制度構築のためのモデル地区として歯科口腔保健活動を展開中である

#### 【結論】

当該地区のTNSに歯科・口腔保健のカリキュラムを導入し口腔保健を担う人材の育成のためのシステムを構築した。今後は当該地区のヘルスセンターにて歯科口腔保健サービスを提供できる環境を整え全国展開を検討する。

## **Capacity building project of nurses through dental and oral health training in Phone Hong district, Lao PDR.**

Gen Yano<sup>1-3)</sup>, Toshimitsu Mochida<sup>1)</sup>, Ikki Watanabe<sup>1)</sup>, Takao Sato<sup>1)</sup>, Fumitoshi Takayama<sup>1)</sup>, Kazuo Komine<sup>1)</sup>, Takashi Miyata<sup>1)</sup>

1)Organization of International Support for Dental Education: OISDE,

2)Nadogaya Hospital, Kashiwa, Japan

3)Department of Oral Surgery, Nihon University Dentistry at Mastudo

### **INTRODUCTION**

Lao PDR is the only country in South-East Asia, which does not have Dental Nurse System(DNS). Due to lack of the system, there is no one who provides oral health service, nor place where educate nurses about the knowledge and skills of oral health. Thus, OISDE has transferred basic knowledge and skills of oral health to nurses and students in local Technical Nursing School(TNS). The purpose of this project is development of DNS.

### **ACTIVITIES**

OISDE transfer skills in order to establish Oral Health Service in Phong Hong District, Vientiane Prefecture through nurses and students in TNS. In the 1st phase of the project, establishing basic system for providing oral health promotion. In the 2nd phase, OISDE will establish Oral Health Services through nurses and students in TNS, targeting to villagers, students and children. In the phase 1st, OISDE created an original textbook, and provided to Laos Ministry of Health and TNS. Conducted 8 times lectures by University of Health Science teachers and Japanese oral health specialists. Curriculum of oral health has been adopted to the TNS of Vientiane Prefecture. The adoption of the oral health curriculum to TNS, system which is the cornerstone of DNS has been constructed in this project.

### **CONCLUSIONS:**

The system for the development of human resources which is responsible for oral health was constructed. For the next step, OISDE will focus on create a system that can provide oral health services in health center at Vientiane prefecture.

## ○-10 最近のモンゴルの歯科事情と小児齲蝕予防の取り組み」

○黒田耕平

日本モンゴル文化経済交流協会

モンゴルでは、1990年の民主化以降の急速な発展とともに深刻な健康破壊が進んでいるが、歯科分野でも多くの変化が起きている。1991年交流が始まった当時、国立歯科センターでもタービンの動かない日本製のチェアが1台とベルト式の電気エンジンがついたチェア、切削器具のついていない椅子だけのチェアなど、旧式の歯科器材しかなかった。その後24年の間に日本製、ドイツ製のチェアやデジタルレントゲンといった最新機材をそろえる歯科医院が開業している。今では歯科は、高額私費診療によって高い収入の得られる職業となっており、予防や小児診療を行うものは少数となっている。

モンゴルにおける最近の歯科事情と問題点について報告する。

また、モンゴルと日本との歯科医療交流でこれまで取り組んできたこと、今の取り組みと課題、今後の方向性などについても報告したい。

### **Recent Mongolia dental circumstances and childhood caries prevention efforts**

Kouhei Kuroda

Japanese Mongolian culture economic exchange association

In Mongolia, but is progressing serious health destruction along with the rapid development of the subsequent democratization of 1990, is happening is also a lot of changes in the dental field.

We will report on the recent dental situation and problems in Mongolia. In addition, that it has been working up to this in the dental medical interchange between Mongolia and Japan, now of efforts and challenges, we want to also report such as future direction.



# 第26回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術集会

## 協賛・協力企業

(株) ビーブランド・メディコーデンタル

朝日れすか編集室

グラクソ・スミスクライン (株)

# 第26回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術集会

## 実行委員

- 大会長 河村康二（南太平洋医療隊・カワムラ歯科医院）
- 準備委員長 遠藤眞美  
（南太平洋医療隊・日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座）
- 実行委員長 竹内麗理  
（南太平洋医療隊・日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座）
- 実行委員:50 音順
- 有川量崇（日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座）  
門井謙典（兵庫医科大学歯科口腔外科学講座）  
河村サユリ（南太平洋医療隊・カワムラ歯科医院）  
鈴木千鶴（南太平洋医療隊・カワムラ歯科医院）  
田口千恵子  
（南太平洋医療隊・日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座）  
谷野弦（歯科医学教育国際支援機構，名戸ヶ谷病院）  
横山恭子（南太平洋医療隊・カワムラ歯科医院）
- 協力委員 南太平洋医療隊  
日本大学松戸歯学部国際保健部

### 第26回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術集会 抄録集

発効日：2015年7月1日発行

発行人：第26回歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）総会および学術集会  
大会長 河村康二

住所：〒271-8587 千葉県松戸市栄町西2-870-1

日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座内

郵便振込：00140-9-599601 歯科保健医療国際協力協議会